

信州・諏訪圏精密工業の活性化人材の養成

(実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：信州大学（総括責任者：山沢 清人）

プロジェクトの概要

諏訪圏域は世界有数の精密加工企業の集積地域であるが、次代の戦略的高度技術者が不足し、地域産業の行く末が心配されていること、また、企業の開発能力の向上が強く望まれている、などという課題を解決し、かつ現在の取組みを総合的にさらに発展させるため、下記のとおり、人材の育成機能のほかに、技術支援とビジネス支援の機能を充実し、諏訪圏域製造業の活性化の技術的支援と人材の養成を行う。

(1) 人材養成機能：修士課程修了者のために、先端精密加工・デバイス技術に関する博士課程の専門職コースを新設する。教育には、企業と産業技術総合研究所が連携する。

(2) 技術支援：伝統的な精密加工技術を活かしながら更なる技術革新を進めるため、現場での問題点を整理し、その解決法を見出す（研究成果を得る）ための支援を行う。拠点にはオープンラボを新設し、在学生も自由に使用できる体制とする。

(3) ビジネス支援：微細加工のマーケティングや開発のトレンドなどの情報を整理し、微細加工ビジネスを経営面から支援する。

(1) 評価結果

総合評価	進捗状況	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性 の見通し
A	a	b	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

円高及び国内産業の空洞化が急速に進行する中、新たな技術、製品を創造する高度な人材の養成は不可欠であり、有意義なプログラムである。養成目標人数を超える受講者を受け入れ、技術相談会を実施するなど概ね適切に取組が行われていると評価できる。今後は、地元企業が博士専門職課程へ入学者を送ることが容易でない現状の中で、高い実践力を備えた指導的な先端精密加工・デバイス技術に関する高度技術者を輩出し続ける継続的な努力を期待する。

- ・ **進捗状況**：博士課程専門職コースの在籍者数は目標を達成している。また、地域企業人材を対象とした教養講座、技術相談会、信州・諏訪圏テクノ研究会等の活動も評価できる。
- ・ **人材養成手法の妥当性**：戦略的な開発技術者養成プログラムは意欲的である。しかしながら、養成技術者の人材像を明確にすることや、投入コスト比の養成人材数が十分かなどの検討が必要である。
- ・ **実施体制・自治体等との連携**：産総研、公設試、諏訪圏域 6 市町及び諏訪圏企業が、講師派

遣、実施場所の提供、インターンシップの受入等において大学と連携し、一体となって地域ニーズと地域再生に貢献しようとする方向性は評価できる。

- ・ **人材養成ユニットの有効性**：本博士課程専門職コースの受講者全員が地域企業に在籍、あるいは就職を希望していることは評価できる。また、信州・諏訪圏テクノ研究会も本プログラムの効果を高める施策として評価できる。
- ・ **継続性・発展性**の見通し：信州大学に設置されている他の専門職コースと一体化した「信州技術系社会人育成コース」の設置に向けた努力は、資金確保に向けた大学の自助努力と自治体等の財政支援の可能性を含めて評価できる。今後は、経営大学院との連携の強化を期待する。